

令和3年11月8日

研究推進部 研究主任 佐々木

令和3年度 ユネスコスクール NISHITA 校内研通信 No. 2
6年生 外国語 Unit1~3「世界の国々を知り、紹介し合う」

6年2組

◆本時について

習った表現を用いて会話しながら、世界の子供たちの生活やその背景に関心を持ち、すすんで調べ学習に取り組む。

◆協議会での意見 授業を振り返る視点

〈分科会提案 6年〉

外国語でやるのがチャレンジだった。これまで「平和」というテーマに子供は主体的に取り組んでいたのかという問いから、今年は子どもの知りたいことから国際理解を始めた。その皮切りとして外国語と総合との関連を図った授業を提案した。これまでの自分の価値観を見直すことができるような授業づくりになるよう意識して取り組んだ。今後は世界のリアルに目を向けながら、キャリア教育につなげていく。

〈授業者自評〉

盛りだくさんな授業になった。事前授業ではストリートビューに食いつきがあったので採用した。これから総合に取り組むうえで、「偏見やステレオタイプをもってほしくない」という思いで授業づくりに取り組んだ。

〈共有〉

- ・難しさ→ 総合なのか英語なのか。今回の資料等の提示方法では生活背景まではいかないのではないかな。
- ・情報量 グーグルアース・ユネスコどちらも有効
- ・視覚、データどちらも上手く使うのが有効 Google earth を上手く使うには難しい
- ・ESD視野を広げるきっかけにはなったが、英語、総合どちらにふるか。モジュール的に英語総合総合というように1時間の中を上手く使い分けるとよいか。もし英語だったら、会話をもっと・・・と思ったが。
- ・自分のもっているイメージと違いがある。
- ・ESDにつなげていくのだったら国を決める理由を問うと良いかと思ったが ずっと同じ国を調べるわけではないので、それでよいか。
- ・一斉に調べると、どの情報を信用したらよいか。情報源の信頼度の問題が出てくる。
- ・課題をもっている国にするか、その子の興味のある国にするか。
- ・どこまで調べるとよいか。観点項目を定めるとよいか。

【講師の先生より】

- ・思考力を育成するならワークシートを埋めさせるのではなく、問いをつくる取り組みを行っていくとよいのではないかな。問いの作成の場面で思考力を育成していくことができる。
- ・教科間連携は重要だが、教科固有の学習（コミュニケーション場面等）を、する必要がある。
- ・ユネスコスクールとして、ESD を推進する姿に誇らしさを感じる。多摩市で推進したESDが、つながりの中で、さらに広げる役割を期待する。
- ・西田小学校として、教科間連携によるESDの新しい授業づくりの提案・発信をしていってはどうかな。

【研究主任より】

講師の先生は、中学籍の英語教員出身です。また、多摩市の指導主事として、全校ユネスコスクールを実現されています。英語科教員としての高い専門性を基礎とし、ESDのパイオニアとしてのご経験から、本校の活動を価値づけいただきました。「ユネスコスクール西田小学校として、授業スタイルの新しい提案をしていくべき」とのお言葉は、本校に対する力強いエールと受け止めました。外国語と総合的な学習の時間との連携により、ESDでの育成を目指す価値観を広げていきながら、児童の情報活用能力が向上することで、飛躍的な資質能力の向上が図れるのではないかと感じる授業でした。そのためにも、教員の情報活用能力の育成が早急に求められると考えます。また、今回は過密回避のため、隣の教室でICTによる授業参観を行いました。同学年の先生に授業の内容等を説明していただき、授業づくりの過程も学ぶことができました。これからもICT機器の活用を通して子供も教師も深く、広い学び合いができる学校を目指していきましょう。